

マニラ 出稼ぎ労働者が支える経済成長

須賀 努

コラムニスト・アジアンウオッチャー

フィリピンというと何となく「怖い国」というイメージが付き纏い、何度も訪れている人がいる一方、初めて行く場合は少しハードルが高い。今回は経済好調と伝えられるマニラを初めて歩いて見た。

マニラは危険なのか

筆者はここ2年、アジア各国をほっつき歩いているが、旅慣れたせいかわたしに遭うことは殆どなかった。だが今回はマニラ在住日本人から「危険だから無暗に歩き回るな」「公共交通機関には乗るな」「チャイナタウンには行くな」などという、こちらが「飯の食い上げ」になりそうなアドバイスを多数頂戴してしまった。マニラでは日本人観光客がスリ、強盗に日常的に遭っているというのだ。

実際にはマニラ市内に入り、5日間庶民の足であるジブニーを乗り回し、電車・バス・タクシーにも乗り、チャイナタウンやイスラム街なども歩いて見たが、特に危険は感じられなかった。寧ろ英語が通じ、表示にも英語があることから、比較的街歩きは容易であった。表現としては「言葉の通じるバンコック」という印象。ただ筆者の場合、10人以上のフィリピン人から道を聞かれるなど、どうやらフィリピン人にかなり似ているようなので、問題はなかったとも言える。まだまだ貧しい人も多いマニラ、如何にもお金を持っていそうに見える格好の一般旅行者・出張者は注意するに越したことはない。

日本企業のプレゼンスは高い

そんなマニラではあるが、空港から街に入ると渋



写真1 マニラを走る庶民の足 ジブニー

滞がひどい。その連なる車を眺めていると目に付くのは日本車。10台中7台がトヨタということもあるほど、圧倒的なシェアを持つ。三菱、本田、日産も続いており、そのプレゼンスは高い。勿論中古車もあるが、新車が目立つところにフィリピン経済の好調さが伺われる。他のアジアでは強い韓国勢も携帯など日本勢が出ていない分野以外あまり姿を見ない。フィリピンは親日国の上に、日本企業との密接度がアジアの中でも断トツ。貿易相手国でも日本がNo.1。

昨年の尖閣問題以降、日本企業の中国投資見直しに合わせて、マニラにも多くの企業が視察に訪れ、投資も進んでいると聞く。ただ投資の主体は既に進出した企業の工場拡張などという話もあり、初めて進出する企業にはそれなりにハードルはある。尚今後はこれまでの製造業に加え、内需の伸びに合わせて外食産業やコンビニなどサービス業などが進出すると予想される。

その昔の商社支店長誘拐事件の影響か、大手企業の駐在員は社有車でしか行動しないなど、フィリピン人との間には壁が存在している。日本企業が本当の意味でどんどん進出していくためには、「この危険」なイメージを払しょくしなければならないだろう。



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

撮影：佐渡多真子



経済は好調だが

敬虔なカトリック国であるフィリピンは人工中絶を許さないこともあり、人口増加が顕著である。既に9400万人以上の人口を抱え、今後も増加が予想されている。中産階級と目される月収1000米ドル以上の収入を得ているのは、全人口のわずか15%。この富の偏在が著しいことがフィリピンの特徴と言える。

2012年、フィリピンのGDP成長率は6.6%と好調だった。その要因を尋ねると「OFW（Overseas Filipino Workers）からの送金が過去最高214億米ドルになったから」と言われて、戸惑う。OFWとはいわゆる海外出稼ぎ者であり、人口の10%を占める人々の海外就労による稼ぎが国を支えていると聞くとちょっとイメージが崩れる。貧しい家庭への仕送りは消費に直結するので経済効果は大きい。大型のショッピングモールが次々に出来、不動産開発も活発になっているが、「外資の投資はあまりなく、地元資本でカネを回しているだけ。地元財閥は不動産価格が下がらないように努力している」との声も聞こえてくる。

それでも格付け機関による投資格付けが投資適格（トリプルB）に格上げされるなど、国際的にフィリピン経済の向上は認知されている。問題は支柱産



写真2 マニラの巨大ショッピングモールに出店するユニクロ

業が無い中、数年後はどうなるのか。ある専門家は「フィリピンの優位性は安価で英語の出来る労働力」と酷評し、先行きに懸念を示している。

フィリピンはアメリカ陣営

マニラで華人の活動状況を眺めてみた。ゴゴンウェイ、SM という巨大ショッピングモールを運営するヘンリー・シー、フィリピン航空のルシオ・タンなど、華人が経済の半数以上を牛耳っている様子が見える。

フィリピン華人の活躍は目に付くのだが、中国大陸からの投資は殆ど見えてこない。地理的に近いこと、元々華人の殆どが福建系であることから、台湾の進出は所々に見られるが、他の東南アジアのように中国のプレゼンスが増している様子がない。フィリピン華人も「我々は中国人ではなく、フィリピン人だ」とバンコックの華人同様、既に地元へ溶け込んでいることを強調する。

「中国側から見れば、フィリピンも沖縄もアメリカ陣営なんだよ」とあるフィリピン人は言い切る。アメリカの統治下にあり、米軍基地もあったフィリピンは当然アメリカの影響が強い。更に南沙諸島の問題などもあり、中国企業も対フィリピン投資には慎重にならざるを得ないようだ。政治問題が拡大すれば資産の差し押さえなど、何が起こるか分からない。この辺りの政治的リスクに中国企業は非常に敏感だ。

ともあれ現状好調なフィリピンだが、今後の動向には政治的にも経済的にも微妙な問題が多い。ただ個人的にはこれだけの親日国、何とか生かせないものだろうか、と思ってしまうのだが。